

# DWL - Digital Workplace Learning

---

この文書は AI によって唯一の情報源を使用して作成されました  
[dwl.education](https://www.dwl.education) ウェブサイト、その重要なポイントを定義し、  
人間の精神によって開発されました。

## 短いプレゼンテーション

DWL は、DWL パートナー トレーナーだけでなく、より構造化された企業の内部トレーナーによって実施される対面またはリモート セッションとデジタル手法を統合した、革新的な企業トレーニングを提供します。効果的な学習、知識の共有、習得したスキルの職場での実際の応用の促進に重点を置いています。このコースは、人事、トレーナー、マネージャーの役割を強化し、仕事のリズムに適応し、内容をよりよく吸収できるようにします。これは、包括的で持続可能なソリューションとして機能します。

## 要点

### 統合された柔軟なトレーニング

デジタルと対面または遠隔学習を統合した学習モデル。薄めの時間で配信することで仕事のリズムとの両立を目指し、参加者のニーズに合わせた柔軟な学習アプローチを提案します。これは、トレーニングが日常のワークフローを中断しないようにするために重要です。

### 学習効果

この方法論は、情報の理解と保持を向上させるように設計されています。同僚との共有を重視しており、学習プロセス中のコラボレーションと知識交換の重要性を示唆しています。もう一つの重要な要素は、日常業務における実際の応用を示し、実践的かつ具体的な結果につながるトレーニングの目的を強調します。



# DWL - Digital Workplace Learning

---

## 人事・管理者の役割強化

これらの主要人物の貢献は、トレーニングの成功の基礎であると考えて評価してください。参加者に優れたやりがいのある役割パフォーマンスをもたらす、参加者の個人的および専門的な能力開発のためのツールとなるトレーニングを提供します。

スポンサーとしてマネージャーと中間マネージャーの仕事を強化し、日常的に協力する同僚のトレーニングに弾みを与え、全社レベルを学習プロセスに参加させる重要性を強調します。

## トレーニング計測

管理できない大量のデータよりも、データの品質を優先します。人事および研修コンサルタントの意思決定に役立つ測定。さまざまなトレーニング段階に分散され、学習を検証して加速するための「プロンプト」システムと統合されています。

## インクルージョンと持続可能性

参考サイトも含め、視覚障害や聴覚障害を持つ人がプレイできるように開発されています。この機能を核として開発されています。また、言語的にも包括的です。参加者は、インターネットにアクセスできる人の大部分をカバーする 11 の言語にアクセスできます。持続可能性に関しては、ドキュメントのサイズが約 90% 削減され、必要に応じて、印刷することなくドキュメントに直接メモを取ることができます。

## スキル

、活動をよりシンプルかつ効率的にするために、日常管理の基本と考えられるスキルを開発しました。



# DWL - Digital Workplace Learning

---

## 私たちは誰なのか

業務の不可欠な部分としてデジタルに取り組むことを決意した世界各地のトレーナーのグループ。障害により考慮されないことが多い役割も含め、顧客のニーズを垂直化できるデジタルベースを構築します。組織的にも経済的にも。これは、マネージャーや管理者は優れていてもよいが、彼らに報告する人々も優れている必要があるからです。

## 学習に対する DWL アプローチの主な利点は何ですか？

対面と遠隔の両方でのデジタル学習とライブ学習の**統合**

時間配分によるワークリズムとの**両立**

学んだことのより深い**吸収**

**共有する機能。**

日常業務における**実際の応用。**

人事、トレーナー、マネージャーの役割の**強化**

このアプローチにより、従業員それぞれが必要とするさまざまなスキルを習得するための企業研修が作成されます。この新しい学習コンセプトは、包括的かつ持続可能な方法で、デジタルと対面学習または遠隔学習を統合します。目的は、マネージャーと中間マネージャーの仕事を強化し、毎日協力する同僚のトレーニングに弾みをつけることです。



# DWL - Digital Workplace Learning

---

## 質疑応答

### ワークプレイスラーニング (DWL) とは何ですか？

デジタルワークプレイスラーニング (DWL) は、対面またはリモートでのデジタル学習と従来の学習を統合する企業学習へのアプローチです。目的は、より包括的で持続可能で、仕事のリズムと両立できるトレーニングを作成することです。このアプローチはコンテンツの単純なデジタル化に限定されるものではなく、研修専門家、人事担当者、マネージャーの役割を強化し、従業員のパフォーマンスと幸福を向上させることを目的としています。これは、トレーニングの効果を最大化するために、異なる学習方法を統合することに重点を置いた概念です。

### DWL はデジタル学習と対面学習または遠隔学習をどのように統合しますか？

DWL は従来の学習に代わるものではなく、それを補完します。ハイブリッド アプローチでは、柔軟性や拡張性などのデジタル学習の利点と、対面学習または遠隔学習の相互作用や関与が組み合わされます。これにより、参加者のさまざまなニーズに合わせてパーソナライズされたトレーニング コースを作成し、オンライン リソース、インタラクティブなワークショップ、個人またはグループのコーチング セッションを組み合わせる提供することができます。統合により、時間をかけて学習を分散することが可能になり、コンテンツのより深い吸収が促進されます。

### 参加者にとっての主なメリットは何ですか？

DWL は参加者にいくつかのメリットを提供します。主なものとしては、次のようなことが挙げられます。時間の経過に伴う学習の柔軟性と分散による仕事のリズムとの互換性。獲得した知識のより大きな吸収。経験や知識を同僚と共有する可能性。学んだことを日常の仕事にすぐに応用する機会。さらに、DWL は参加者の健康を目指し、スキルを向上させ、仕事のパフォーマンスを向上させるトレーニング コースを提供しています。



# DWL - Digital Workplace Learning

---

## DWL は人事、トレーナー、マネージャーの役割をどのように強化しますか？

DWL は、参加者だけでなく、トレーニングを管理する専門家にとってもツールです。DWL 手法は、人材の役割を強化し、トレーニング コースをパーソナライズし、結果を効果的に監視できるツールとアプローチを提供します。トレーナーは、仕事を促進し、トレーニング活動をより魅力的で効果的なものにするリソースを通じて権限を与えられます。マネージャーは、同僚の研修プロセスに参加し、的を絞った会議を通じて同僚の能力開発をサポートできます。したがって、DWL は会社全体の成長エンジンとなり、継続的な学習に基づいた企業文化の構築に役立ちます。

## DWL 方法論はどのようにして包括性と持続可能性を確保しますか？

DWL の方法論では、包括性と持続可能性に重点が置かれています。デジタル学習、対面学習、遠隔学習などのさまざまな学習手段を統合することで、地理的位置や学習スタイルに関係なく、視覚障害や聴覚障害のある人を含むすべての参加者にアプローチすることができます。持続可能性は、「軽量」デジタル ドキュメントと、旅行の一部に関連する環境への影響の削減によってサポートされます。参加者はいつでも 11 か国語で利用できます。

## DWL を通じてどのような種類のスキルが開発されますか？

DWL は、コミュニケーション、時間管理、会議のリーダーシップ、プレゼンテーションの準備、顧客文化、経営上の起業家精神など、さまざまなスキルの開発に重点を置いています。さらに、あらゆる人の異なるニーズに適応し、特定のギャップを埋め、個人的および専門的な能力開発を促進するためのツールを提供します。目標は、参加者にそれぞれの役割で優れて会社の成功に貢献するために必要なスキルを提供することです。

## DWL トレーニング コースの成功はどのように測定されますか？

DWL プログラムの成功は、定量的指標と定性的指標の組み合わせによって測定されます。定量的な指標の中で、除外されがちな役割の研修活動への参加の増加、仕事のパフォーマンスの向上、離職率の削減などを評価できます。一方、定性的指標には、参加者のフィードバック、企業プロセスへの関与の増加、継続的な学習に基づく企業文化の構築などが含まれます。結果を測定することで、プログラムに変更を加え、時間の経過とともにその効果を最適化することができます。



# DWL - Digital Workplace Learning

---

## DWLの今後の展望は何ですか？

デジタルワークプレイス学習は急速に進化し、変化し続ける仕事の世界のニーズに適応しています。将来の見通しとしては、人工知能やその他の高度なテクノロジーの使用を通じて、トレーニング コースのパーソナライズがさらに進むことが予想されます。急速に進化する雇用市場で参加者が競争力を維持できるようにするために、参加者の継続的な学習とスキルアップに重点がますます移っています。さらに、DWL は日常のワークフローにますます統合され、「現場での」学習と取得した知識の即時応用を促進することを目指しています。

